

殿村遺跡の発掘

第8次発掘調査・平成28年12月・松本市教育委員会

1 殿村遺跡とは？

平成20年に学校建設計画に伴う発掘調査が行われ、室町時代～戦国時代（約400～500年前）の大規模な造成跡や石積みが見つかりました。

広大な造成面（平場）からは、石積みの他にも建物の礎石・柱穴、塀の基礎などの遺構が見つかりました。また、遺構の内外から、中国産の高級な陶磁器や茶道具（茶碗・茶入れ・茶壺・風炉・茶臼）、地元産の素焼き土器の皿や鍋、文房具の硯、石臼、下駄や漆器、まじないの道具などが大量に見つかりました。

こうした大規模な造成や高級な遺物を伴う中世の遺跡は、武士の館跡や寺院などに限られません。つまり、殿村遺跡は庶民が暮らした場所ではなく、権力者や特定の勢力が多くの労働力と資金を投入して活動を行っていた場だったこととなります。

これまでの調査から、造成跡は300m四方の範囲にひな段状にいくつも連なり、大規模な遺跡であることがわかってきました。また、遺跡の広がる殿村の地には中世の古文書や絵図から長安寺、補陀寺、叡ヶ寺という寺が存在していたことがわかっています。これまで見つかった遺構や遺物の内容から見て、殿村遺跡はこれらの寺に関係する施設が姿をあらわしたものである可能性があります。

一方、「殿村」の地には、中世に会田盆地を治めた会田氏の館があったと伝えられており、遺跡と会田氏の関係も注目されます。

2 遺跡の現状保存とは？現在行っている発掘の目的は？

平成20年の発掘は、学校の建設でやむを得ず遺跡が破壊される部分を事前に発掘し、写真や図面による記録を残そうとするものでした。→【記録保存】

相次ぐ重要な発見により、平成21年に四賀地区の皆さんからの要望を受け、学校建設予定地が変更されました。これにより、見つかった遺構は将来にわたって開発などの破壊を受けることなく、そのまま保存されることになりました。→【現状保存】

3 今回の発掘の目的は？

保存が決まった殿村遺跡を将来に受け継ぐためには、遺跡をどのように保存し活用していくのか、その方法を考える必要があります。その一歩として、まずは遺跡の内容について詳しく知る必要があります。

遺跡の構造や、その範囲、そしてなぜここで大規模な造成が行われたのかなどの点を明らかにするため、平成22年から8年間、遺跡の広い範囲で確認のための発掘調査を実施することとなりました。

今回の調査では、1次調査地（旧会田中校庭）に広がる平場跡の南部の状況を探ることを目的として、1カ所（8B1トレンチ）で発掘を実施しています。

4 今回の発掘のおもな成果は？

(1) 旧会田小学校校庭の下にも石積みを伴う平場が存在した

1次調査のA区で見つかった石積みを伴う平場跡の南、約70mの地点にある旧会田小学校の校庭から、今から500年以上前の室町時代に造成された平場跡が石積みを介して上下2段見つかりました。（上段の平場の南側が石積みで護岸されていました）

平場の上からは、建物の一部とみられる礎石や柱穴、土坑や溝、炉の跡などが見つかります。特に南側の下段を中心に、埋土に焼土や炭が混ざった土坑や炉の跡があることなどから、火を使った何らかの作業が行われていた可能性が高いです。このことに関連して1点だけですが、銅が付着した坩堝（るつぼ）が見つかり、周辺で銅鍛冶が行われていた可能性があります。

出土遺物は、地元産の皿や鍋などの生活用具から、瀬戸産の天目茶碗などの茶道具や、水滴などの文房具も出土しています。あわせて、中国産の天目茶碗や高級な青磁の碗などの出土も目立つことから、この場所に重要な施設が存在したことは間違いありません。

また、縄文時代の石器や古代の須恵器なども出土し、この地における人びとの生活が数千年前までさかのぼることもわかりました。

地元産の鍋や瀬戸産の陶器の特徴から、15世紀から16世紀にかけて営みが行われたと考えられ、1次調査地点の平場跡と同時期に存在していたと考えられます。

(2) 殿村遺跡の範囲がしっかりと確認できた

今回の調査区においても、殿村遺跡を特徴づける石積みを伴う平場跡が新たに見つかったことで、殿村遺跡の南側の範囲を確認することができました。これにより、殿村遺跡は300m四方の範囲にひな段状にいくつも連なっている、非常に規模の大きい遺跡であることをしっかりと確認することができました。

5 その他に行っている調査は？

私たちは、殿村遺跡をとりまく虚空蔵山麓の歴史的景観を明らかにするため、遺跡の発掘だけでなく、地域に眠る古文書などの資料を掘りおこし、旧地形と照らし合わせるなど総合的な調査を行い、会田を中心とする虚空蔵山麓の歴史を人々のくらしを探っています。

今年度は、殿村遺跡の発掘のほか、古文書や絵図の調査、四賀地区にある石造物の調査や、虚空蔵山城跡の発掘など、多岐にわたる調査を実施しています。

6 殿村遺跡第8次発掘調査データ

(1) 調査期間・調査面積

10月5日～12月末（予定）

(2) 8B1トレンチ（約170㎡）

発見遺構 造成跡、建物の礎石・石積み・集石遺構（敷石か?）・柱穴、土坑、溝、炉跡など（いずれも中世）

出土遺物 縄文時代の石器（矢じりなど）、古代の土器（須恵器）

中世の遺物

…地元産の土器（皿・鍋）、瀬戸産の陶器（天目茶碗・碗・盤・播鉢・水滴・香炉など）、中国産の陶磁器（天目茶碗、青磁の碗）、銭（中国からの輸入銭）、石臼、砥石、坩堝（鍛冶関連）



柵・土坑など中世の遺構(6次調査)
完形のかわらけをとまなう大型の土坑を確認



石積みのある中世造成跡(6次調査)
平場の拡張を繰り返しておこなったことがわかった



1次調査区の遺溝群(東から)
長大な石積みを発見!殿村遺跡の調査はここから始まった



円形に廻る石積み遺構(4次調査)
寄生虫卵を大量に検出。便所と考えられる



今回調査地(8B1)

石積みをとまなう中世の造成跡を確認

- ・礎石 ・柱穴 ・炉跡 ・石積み
- ・集石遺構 ・土坑 ・溝
- ・青磁、古瀬戸、地元産の土器、銭など

殿村遺跡これまでの発掘地点と平場跡



長安寺跡地の中世遺構(7次調査)
池をとまなうお堂跡?青銅製の鏡が出土した

S=1:1,250

0 10 20 30 40 50m

…平場跡の範囲

8B1 トレンチの調査

▶ 焼土や炭が混ざる土坑
埋土に焼土や炭が混ざる土坑
が見つかりました。用途は不
明ですが、周辺で火に関わる
事が行われていたようです。



▼石積みと集石遺構

石積みの根石が見つかりました。その南側に広がる
帯状の集石は、敷石のようにも見えます。



◀ 8B1 トレンチ
旧会田小学校のグラウンドに、南北35mの
トレンチを設定したところ、中世の遺構面
が広がっていました。



▲密集した遺構

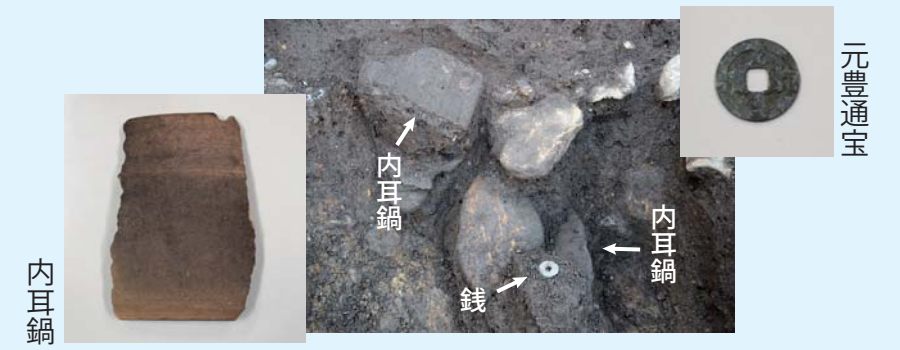
柱穴や土坑、溝などたくさんの遺構が切り合っています。
左奥の縦穴状遺構からは、埴塼(るつぼ)が出土しました。

▶ 四賀小学校6年生の発掘体験
地元の小学校の子どもたちが、発掘体
験を行いました。かわらけや青磁など
の遺物や柱穴、土坑などの遺構を見つ
けていました。



出土遺物

今回の調査でも、たくさんの遺物が出土しました。



調査区中部にある大型の土坑の中から、
内耳鍋と銭が出土しました。

古瀬戸



香炉



天目茶碗

中国産の磁器



青磁碗



小碗

埴塼(るつぼ)



表

裏



埴塼(るつぼ)は溶けた金属を流し込む容器です。銅製品の製作が
行なわれていた可能性があります。

他にも様々な遺物が見つかっています。
遺物展示場所へ行ってみよう。